**予稿集の原稿スタイルフォーマット**

剣峯太郎1，苗字名前1，苗字名前2，苗字名前2，苗字名前2

1.所属機関名，　2.所属機関名



１．はじめに（まえがき，緒言，‥‥‥）

本稿は，認定NPO法人富士山測候所を活用する会が開催する「成果報告会」の講演予稿集に適用するスタイルフォーマットである．投稿者は本フォーマットに準拠する形式で原稿を作成することを原則とする．

本稿はMicrosoft Word 2013により作成した．投稿の際は本フォーマットをテンプレートとして原稿作成されることを推奨する．Word以外のソフト使用の場合も，本フォーマットに準拠して原稿を作成されたい．

原稿は，MSWordおよびPDFの2種類の形式で提出されたい．

２．用紙，余白，フォント，ページ数等

用紙はA4サイズとし，上下24.5 mm，左右19.05 mmの余白（Word既定値の「やや狭い」設定）を設ける．本文は2段組とする．その他の設定は本フォーマットによる．

使用するフォントは表1に示したものを基準とする．ここではMicrosoft Windows標準搭載のフォントを示したが，同様の書体であれば他のフォントも許容する．

句読点は原則として「。」，「、」ではなく「．」，「，」を使用する．

ページ数については特に制限は設けないが，2ページを標準とする．

３．図および表

図および表には「図\*」および「表\*」，または「Fig. \*」および「Table \*」の形式で番号を付す．後者の形式を採用した場合は，図・表の表題・キャプション・内容も欧文とする．

図番号・表題・キャプションは図の下に，表番号・表題・キャプションは表の上に配置する．



図1 観測期間中の光学的厚さの季節変化

図および表の例を，それぞれ図11)および表1に示す．

４．参考文献の表示方法

参考文献リストは本フォーマット末尾に示した形式で，引用順に配列する．本文中では引用箇所に，＊＊＊1)，＊＊＊3, 4)のように表示する．

５．おわりに（まとめ，結言，‥‥‥）

本スタイルフォーマットは予稿の体裁をより統一されたものにするために改訂した．本文を2段組としたこと，余白を減らしたこと，参考文献の表記法を変更したこと以外はなるべく従来の形式を踏襲した．

参考文献

1. 橋口翔，三浦和彦，青木一真 (2016). 富士山山麓および東京神楽坂におけるエアロゾル物理特性の評価．第9回成果報告会講演予稿集，50-51.
2. Tsutsumi, Y., Zaizen, Y., Makino, Y. (1994). Tropospheric ozone measurement at the top of Mt. Fuji. *Geophys. Res. Lett*., **21**, 1727-1730.
3. Tsutsumi, Y. and Matsueda, H. (2000). Relationship of ozone and CO at the summit of Mt. Fuji (33.35N, 138.73E, 3776m asl) in summer 1997. *Atmos. Environ*.,**34**, 553-561.
4. Sekino, H., Nara, C., Tsuboi, K., Hosomi, T., Dokiya, Y., Igarashi, Y., Tsutsumi, Y., Tanaka, S. (1997). Chemical species in aerosol, gases, precipitation and fog at the summit of Mt. Fuji – Observations in summer, 1994 compared with summer 1993 –. エアロゾル研究，**12**, 311-319.